

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 WAKAZO御名前 川竹 絢子 様 / 薬王 俊成 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

### ● 【全宇宙参加型万博】

全世界の人口約80億人のうち、若者の数は、約40億人。世界の半分が若者である。2025年大阪・関西万博を、全世界の80億人が誰ひとり取り残されることなく参加できる万博にしたい。そのために私たち若者は、世界の半数を占める40億人の若者をつなぎ、万博へ参加できるようにする。地球だけでは飽き足りない。宇宙には、まだ誰にも見つけられていない若き生命がいるかもしれない。はるかかなたの宇宙にいる若き生命すら、万博に参加する「全宇宙参加型」の万博を実現したい。若者をつなげるのは、若者だ。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

### ● 【若者独自のパビリオンの実現】

2025年大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」である。「いのち輝く」とは、「まだ救われていない、いのちを救う」こと、「まだ幸せでないひとを、幸せにする」こと、だと考える。人類を救い、救われ、幸福を創出するパビリオン(実験場)を、若者主体で創りたい。ここで、人類を救い、幸せにするためには、「いのちとは何か、人間とは何か」を問うことが必須であると考え。高度経済成長時代、人々は、「いのちとはなにか」という最も根源的な問いさえ問いかける余裕もなく、ただひたすら、得体の知れぬ幸福を目指して働いてきた。これからの新しい未来を共創するために、「いのちとは何か、人間とは何か」を私たちはまず問いたい。

### ● 【エピジェネティクス建築】

創りたい未来像が見えてきたとき、これからの未来を創る若者が、パビリオンの中で未来の共創のための「実験」をしていく場を作りたい。実験の一例として、新たな建築学的思想「エピジェネティクス建築」の実装に挑戦したい。生命科学の進歩により発見された、「エピジェネティクス=生まれ持った遺伝子の表現型は環境に依存し、次の世代にも受け継がれうる」という概念からヒントを得て、多様性、個性の次元を一段引き上げるような思想・哲学を創り上げ、空間として実装していきたい。

### ● 【未来を創る研究場】

万博内で介入研究も含めたあらゆる研究が、強い制約なく行えるようにしてほしい。世界中から人が集まるという稀有な環境を真の実験場にするためには研究ができるようにしなければならない。例えば、夢洲内の下水、来場者の皮膚、パビリオンの細菌叢を解析し、菌と人の生活との関係性を明らかにすることで、メンタルヘルスをはじめ多くの疾病につながっているとされる腸内細菌叢の知見の深化や、近年問題となっている薬剤耐性菌の解決策も含めた、人類の健康とサイエンスのアップデートに繋がると考える。

このような研究を自由闊達に行える実験場と万博がなり、そして万博が終わった後も有意義に活用し残していくべきと考える。

### ● 【課題解決のための実験場】

社会の課題解決の向け、若者が創ったプロダクトが実装実験できる場がほしい。世界中の人が集まる万博会場で実装実験することで、大量のデータを集め、それをもとにプロダクトの質向上が可能である。世界の課題解決に世界中の若者が挑戦できるとともに、万博発の新たな課題解決策を世界へと発信することができる。

### ● 【ヒトとモノの新しい関係性】

データでは掬いきれていない実態、若者の奥底に潜む問題意識を、若者の感性と理性、知性で洗い出したとき、私たちはどのような次代を創るべきかが見えてくる。IT や AI などテクノロジーの発達によって、ヒトとモノの境界が霞む時代だからこそ、「ヒトとモノの新しい関係性」を問いたい。

- 【眠らない万博】

会場は 24 時間オープンしていて、議論がつきなければ泊まることができたり、地球の反対側の若者とホログラムでディスカッションをすることもできたり、宇宙との交信もできたりするとよい。

- 【時代を担う次代】

世界中の若者が集まり化学反応を起こしながら、万博開催期間中に挑戦的な実験を繰り返し、社会の課題解決に挑戦していく。そして、「次の世代に何を引き継いでいくのか」を議論する。時代の流れが激しく一歩先の未来像でさえあやふやなこの時代、未来を創ることはまさに挑戦的な実験の連続だ。万博の歴史を振り返っても、U30 だけで実現したパビリオンはない。新しい未来の共創において、私たち若者を、信じてほしい。

### 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 【<エピジェネティック会場>万博開催期間中も変化し続け、完成することのない会場設計】

開幕直後は運営側の意図に基づいた会場構成が、開催中会場を訪れた人たちのふるまいなどによって少しずつ変化していくような、インタラクティブな在り方を会場計画でとりいれていきたい。来場者自身の行動が万博に少しずつ変化を与えることで、万博開催時には会場が完結してしまっているということを回避し、期間をとおして成長していく万博の達成が期待される。

- 【<令和大茶湯>令和 ver ジャポニズムを触媒とした文化・文明のクロスポイント】

和敬清寂の心で世界の人をもてなし、マインドフルネスで心を落ち着け、世界各種の酒を嗜み食事を楽しみながら、一碗のお茶とともに、無賓主の世界で、未来について語り合う。令話 ver ジャポニズムが触媒となって、イノベーションを加速させるような対話が生まれる休憩室（茶室）を会場に創りたい。

- 【<いのちのちの大三角>中之島・夢洲・ウメキタの連関】

最先端医療の拠点の中之島、人材が集まるウメキタと、巨大な実験場の夢洲を、超高速に移動できる交通機関を設置して 3 拠点を結ぶことで、「いのちを救う」大三角形を形成する。各 3 地点に、入居者を若者対象に限定したインキュベーションセンター（実験場）を設置し、ハードテクノロジーの開発だけでなく、バイオテクノロジーの研究開発にも、若者がもっと自由に携われる環境を整える。

- 【<プレ万博・ポスト万博>夢よもう一度、ではない】

大阪・関西万博がたった 6 ヶ月のイベントで終わるのはもったいない。万博を通して実現したい取り組みの萌芽を育てるための開催前のプレ万博、そして万博閉幕後、万博から生まれた知見、取り組みを更に加速するための閉幕後のポスト万博を開き、更新し続ける万博であってほしい。

### 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- WAKAZO は、万博誘致活動において、すでに世界 50 ヶ国の若者とつながってきました。若者同士を真の意味でつなげるのは、若者にしかできないことです。

- 2025 年大阪・関西万博への全世界 80 億人の参加を目指す上で、グランドデザイン策定の段階から、若者を積極的に中心に登用することを望みます。

以上